

薬物依存者の回復と社会
復帰を支える民間施設「富
山タルク」を、富山市岩瀬
古志町に開設して1年3カ
月が過ぎた。芸能人の薬物
汚染が相次ぎ報じられる
中、「薬物依存は病気であ
り、再犯を防ぐにはまず治
療が必要」と強調する。依
存症を引き起こすさまざま
な問題や心の弱さに向き合
い、治療しなければ、更生
につながらないからだ。

人づれづれ

富山タルク責任者

林 敦也さん

薬物依存 まず治療を



愛知県瀬戸市出身。2001年に
茨城タルクに入所。薬物依存を
克服し、茨城、東京、山梨のタ
ルクでスタッフとして経験を積
んだ。08年5月、富山タルクを
開設。35歳。

めり込んだ。交際していた。若者の更生プログラムに協力す
女性の自殺をきっかけに、ただ「ダメ」と言っ 過去の自分について話
せい剤に手を出し、26歳で「ても効果は薄い。興味本 じ、耳を傾け、見つめ直す
茨城タルクに駆け込んだ。位で薬物を使うと、どうな ミーティングが、全国に50
当時の体重は40kg。何もか るか、そのことを考え、勸 力以上ある「タルク」の
も失っていた。 められても断る勇気を持っ 基本的な治療プログラム
断る勇気が必要 てほしいと願っ だ。家族で問題を抱え込
富山刑務所では月1、2 むことをやめ、依存者を経
県内の違法薬物摘発者は 同、薬物にかかわる受刑者 済的な過保護から突き放す
納涼祭への参加を求められ
るなど、地域の理解や協力
の輪は広がっている。北陸
3県初の施設であり、隣県
に講演やミーティングに出
かける機会も増えた。

「生き直し」の場

「もう一度、生き直そう
と苦しむ私たちに居場所を
与えてくれた」。この夏、
20代の男性が県内で社会復
帰を果たした。2人目の40
代男性も県内で就職する予
定で、薬物依存の克服を支
える富山の懐の深さに感謝
を込める。(若林朋子)

富山政経